

<特別セミナー>

## 英語教育と学習の動機づけ： グローバル社会における研究への展望

エマ・ウシオダ（英国 ウォーリック大学）

### 【要旨】

英語が地球語（Crystal, 2003）、基本的教育スキル（Graddol, 2006）、世界通用語（Lo Bianco, 2014）としての地位を固めるにつれ、英語学習への動機づけには多様な要因が介在するようになった。例えば、「必要性から」、「道具的動機から」、「他者より優位に立つため」、「社会資本・地球市民としてのアイデンティティから」などが、要因として挙げられる。近年来、第二言語の動機づけ理論にはこれらの概念を取り込むような形での展開が見られ、理論としてはそれぞれが外発的動機づけ（extrinsic motivation）、内発的動機づけ（intrinsic motivation）、投資（investment）、ideal and ought-to L2 selves と呼ぶことができる。こういった概念は過去 10 年間、裾野が顕著に拡大し、今なお発展し続けている動機づけの実証研究に深く関与している（Boo, Dörnyei & Ryan, 2015）。本セミナーでは、現在の第二言語動機づけ理論と研究を特に英語学習の動機づけの視座から俯瞰し、そこから地球語としての英語を対象とした英語教育のための、そして英語学習者の動機づけとオートノミーのための示唆を批判的に考えたい。

### エマ・ウシオダ

英国ウォーリック大学応用言語学センター准教授、大学院プログラム主任として、主に博士課程の学生指導に従事。1982年より言語教育に携わり、これまでに日本、アイルランド、英国で教鞭を取っている。世界各国からの言語教育者を対象とした動機づけ・オートノミーに関するワークショップも行っている。主な研究分野は言語学習の動機づけ、異文化間交流、学習者オートノミー、社会文化理論および教師教育で、これらの分野での著書は数多い。近著に *International Perspectives on Motivation: Language Learning and Professional Challenges* (2013), *Teaching and Researching Motivation* (Z. Dörnyei との共著, 2011), *Motivation, Language Identity and the L2 Self* (Z. Dörnyei との共著, 2009)がある。現在、共同編集者として、*The Modern Language Journal* 誌の英語以外の言語学習における動機づけについて取り組んでいる。

